

キャラクター名
椋浦 源

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス ブラックドッグ		ワークス	UGN支部長A	カヴァー	UGN支部長
	オプション		年齢	23歳	性別	男
覚醒	無知	衝動	恐怖	初期侵食率	32	%
出自	義理の両親	経験	UGNへの忠誠	邂逅	慕情	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	3	1	0			4	行動値	7
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	7
精神	1	0	0			1	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:	8		芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
モーフィングバイク	運転	4r+8	0	8		
モーフィングバイクII	運転	4r+8	0	11		
		0				
エースドライブ	運転	6r+8	0	8		判定ダイス+2風、C値。(モーフィングバイク) × (エースドライブ) × (CR:モルフェウス)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:要人への貸し	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	ダイス	消費
天羽生 司	P 連帯感	N 不安		
大塚 総一郎	P 信頼	N 無関心		
霧谷 雄吾	P 尊敬	N 不信任		
姫宮 由里香	P 慕情	N 偏愛		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヴィーグルモーフィング	2	2	マイナ	至近	自身	-	-	
効果: 使用時にヴィーグルモーフィング専用アイテムからひとつ選択し、取得する。このエフェクトで取得したヴィーグルはシーン終了時に失われる。※ヴィーグルは下記に記載								
エースドライバー	1	2	Xジャーリアクション	-	-	<運転>	-	
効果: このエフェクトを組み合わせた判定のダイスを+[LV]個する。								
クリスタライズ	3	4	Xジャー	-	-	シンドローム	100↑	
効果: このエフェクトを組み合わせた攻撃の攻撃力を+[LV*3]し、装甲値無視。1シナリオに3回。								
フルインストール	3	5	インシテブ	至近	自身	-	100↑	
効果: そのラウンド間、あなたが行うあらゆる判定のダイスを+[LV*3]個する。1シナリオ1回。他のエフェクトと組み合わせて使用できない。								
CR:モルフェウス	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: 組み合わせた判定のC値を[-Lv](下限値7)。								
イオノクラフト	1	1	マイナ	至近	自身	-	-	
効果: 飛行状態で戦闘移動を行う。移動距離を+[LV*2]mする。								
タッピング&オンエア	★	1	Xジャー	視界	効果参照	-	-	
効果: 無線電波を傍受したり、逆に電波を放送して画像や音声などの情報を送受信するエフェクト。								
テクスチャーチェンジ	★	-	Xジャー	至近	自身	-	-	
効果: 機能を維持したまま、物品の外見を変更するエフェクト。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【基本】
椋浦 源(とちうら はじめ)、23歳。

【性格】
責任感が強い

【概要】
土やアスファルト、コンクリートなどこの世に存在している物質であれば基本的に違うものに変化させることができる。乗り物を生み出し、追跡時や戦闘時に用いる。

【PCのこれまで】
生まれたときから力があった。そして、5歳の時に実の両親をこの手で殺してしまった。力の暴走だった。一時UGNの保護・監視下にあったが、資産家の老夫婦に養子として引き取られた。それでも完全にUGNの管理下から離れたわけではなく、もしまた力が暴走しても制御できるように力を扱う訓練と人手不足であったUGNに有償で任務をこなしていた。普通の人間として生活していたがバケモノはバケモノでしかなかった。高校2の夏、友達と一緒に学校から帰っていた時、全身黒ずくめの大男とすれ違った。その時、急に右腕が疼き始める。微かな記憶がよみがえる。これはあの時の…大切な人を失ってしまうときの感覚だ。逃げなきゃ…逃がさなきゃ…。そして、気を失った。
目覚めると白い天井がそこにはあった。身体に力を入れると右肩が痛む。何があったかと聞くと、エフェクトによって作り出した金属の刃で自らで自らの右肩を刺し、気を失ったところを保護されたらしい。一緒に帰っていた友人は無事だったようだ。このことがきっかけで、UGNに専属することを決意し、義理の両親のもとからも離れた。これ以上、自分の力で大切なものを傷つけないために…。そして現在は、任務等への姿勢が評価され支部長を務めている。